

「教養日本力」高度化推進プログラム 台湾調査報告

訪問先	国立政治大学（季陶楼）
調査日時	2007年11月23日 8:00-10:00
調査対象者	国立政治大学 日本語文学系 蘇文郎教授、小林行夫副教授
訪問目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「教養日本力」高度化推進プログラム主旨説明 2. 訪問校における関連事項に関するインタビュー 3. 訪問校から本プログラムに対する要望の確認
調査方法	独自に作成した項目に従ったインタビュー、写真・録音記録
調査結果	<p>【コース概要】 同コースは、1997年に東方言語学科から独立、設置された。教育目標としては日本語能力と日本研究の能力をバランスよく身につけた人材の育成があげられる。現在同コースに所属する教員は10名いるが、その専門も言語学が3名、文学が2名、歴史・文化が5名となっており、開講科目も語学・文学に偏らずに編成されている。</p> <p>【入学選抜方法等】 大学への入学選抜方法は以下の通りである。1) 大学統一試験、2) 推薦入学、3) 申請入学（華僑対象、書類審査のみ）。特筆すべきは推薦入学枠の多さで、全体の25%が推薦入学者である。推薦入学の場合の選考は統一試験の他に面接が設けられ、日本についての基礎知識、日本文化／社会への関心の程度、日本語学科を選ぶ理由等が考慮される。なお、学年定員は学部35名、大学院10名である。</p> <p>【開講科目について】 日本理解、日本事情等の科目が1年次からカリキュラムに組み込まれている。また、それらの日本学関連（語学・文学以外）の科目が必修科目全体の1/3をしめており、日本研究に重点をおいたカリキュラム編成が特色といえよう。その理由としては、知日人材の育成の国家的必要性があげられた。（cf.同国の日本語教育において長い歴史をもつ私立の東呉大学等では日本語教員養成的色合いが強い） 開講科目の内容は以下のとおりである。 新聞：日本語力のUPと共に、日本社会の関心事項についての知識を深める。 また、先端研究としてセミナーを開講。主な内容は語学、文学、歴史文</p>

化、政経、外交など。

また、大学院生の研究テーマとしては、明治の生活文化、近世の家族社会史、宗教社会史、政治思想史、幕末政治史、中世宗教社会史、近世文学等があげられた。

また、年間3～6名程度の客員教授をよび、2週間程度の集中講義を開講している。集中講義の内容も語学、文学、歴史等バランスを重視している。大学院進学を目指す学生には、日本の大学を卒業したものと同等のレベルの専門性と語学力を育成することを目標としている。

また、日台関係史など、ある意味デリケートであると思われる事項に関しても、歴史学的に史実としてその背景を明確にする。その上で、そのことに関して考え、分析する能力を育成している。

【学部の国際化に関する問題】

大学全体の留学生の出身国中最も多いのは日本で、その他欧米圏からの交換留学生を受け入れている。留学生の専門は民族学、中国語学、社会学、商学等が主である。短期留学を含めれば年間500名程度の学生を海外から受け入れている。

現時点では同コースレベルでの日本人留学生と学部生の交流に関するプログラムや制度等はないが、今後何らかの形で実現を模索している。ただし、寮は留学生と台湾人学生が4、5人程度で部屋をシェアするのが基本であり、また大学が運営する言語交換のシステム等はあるので、個人レベルでの交流は行われている。

また、今後の戦略として、国際交流センターが国際的プロジェクトを推進している。(取得を資料参考のこと)

【コース運営にかかる問題・努力】

既に述べたが、カリキュラムの編成時には専門性に偏りのないよう配慮をしている。また、大学院進学を目指すものに対しては、日本研究および日本語の能力を日本の大学を卒業したものと遜色のないレベルまで育てることを目標として指導している。

学生からの要望としては、日本語力のアップのために日本人学生との交流の機会を多く持つこと等があげられているが、先にも述べた通り、その件に関しては現在検討中である。また、日本のポップカルチャー、サブカルチャーに関する研究を希望する学生もいるが、担当できる教員の不足により実現は困難である。

語学、政治学関連の非開講科目に関しては、東呉大学等度の提携により、単位互換の制度が設けられている。

	<p>90年代末に定められた国家的大学抑制策（予算削減策）により、大学院を設置するためには学部学生を減らさなくてはならなくなった。そのため、大学院生の定員を拡大することができない。なお、大学院生の学年定員は10名とし、語学4名、文学3名、歴史学3名の割合でとっている。</p> <p>【教員について】 採用の基準は専門分野のバランスを見て決める。最低条件として博士の学位が要求される。また、教員の質的向上に向けた組織的プログラム等は特にない。</p> <p>【卒業生の進路について】 2006年度までの統計によれば、企業（日系含む）への就職が最も多く全体の過半数を占め、その後国内の大学院への進学、留学、兵役、専門人材育成機関への進学と続く。</p> <p>【まとめ】 以上、台湾国立政治大学の日本語文学系の特色としては、語学、文学に偏らない、広い意味での日本研究に重きを置いている。そのことは、カリキュラム編成、教員の構成等からも見てとれる。知日人材の育成という言葉が印象的である。また、ここでもやはり学習の動機としては日本のポップカルチャーやサブカルチャーをあげるものが少なくないが、社会学ではなく人文科学系の同大学同コースにおいては、その要求に応えることが難しいというのが課題としてあげられた。</p> <p>なお、東京外語大に対する要望としては、集中講義のための客員教授派遣、学術提携の強化、共同研究プロジェクトの推進、日本学関連の教育蓄積、カリキュラム編成の工夫等のシェア、交換留学生の授業でも日本理解を深める科目を多く開講すること等があげられた。</p>
備考	<p>【受け渡し資料】 （外大→政治大）：本プログラムパンフレット、OFIASパンフレット、「2008年度大学院入学案内」各1部 （政治大→外大）：96学年度（2007年度）日本語文学系課程時間表、96学年度日本語文学系文学系（学士班）専業科目一覧表、日本語文学系（学科）及び碩士班（大学院修士課程）資料、95年日文系訂購期刊清單、国際教育交流センターパンフレット 各1部</p>

調査担当者： 外国語学 岡田昭人



国立政治大学 季陶楼



日本語文学系研究室前 蘇文郎主任と